

## 男女共同参画学協会連絡会第2回大規模アンケート調査報告

## Analysis on the Large Scale Survey by EPMEWSE in 2007.

# 中村 匡 [1]

# Tadas Nakamura[1]

[1] 福井県大

[1] FPU

平成11年に男女共同参画社会基本法が制定されてから、今年は10年目の節目にあたる。研究者コミュニティーにおける男女共同参画の実現に向けて、理工学系の学会における担当者が集合して男女共同参画学協会連絡会が発足してからすでに5年余りが経過した。その間、加盟学協会は、政府が策定した男女共同参画基本計画(第2次)が掲げる課題のうち、男女雇用機会均等の推進、仕事と家庭・地域生活の両立支援と働き方の見直し、男女平等を推進する教育・学習の充実という課題を中心に、対応を模索してきた。

これらの活動の一環として、第5期の連絡会事務局である日本生物物理学会の美宅委員長のもと、実行委員である豊島氏、大坪氏らによるご尽力によって第2回大規模アンケート調査が実施された。第1回と同じ設問に加え、自由記述形式の設問も新たに設定された。ポスドク世代である30代の回答が最も多く、前回と比較して回答者の女性比率が上がっている。また、若い世代ほど回答者の女性比率が高く、女性研究者の問題意識の高さが浮かび上がる。アンケート項目は多岐に渡るため、いくつかのテーマに焦点を絞って分析されて、興味深い結果が得られている。講演ではこのアンケート結果を中心に、第一回のアンケートや他の調査などの結果も交えて、地球惑星科学連合での現状の分析を紹介する。